

分科会活動

システム技術分科会

2015 年度 第 1 回会合	クラウド利用 現在、過去、未来
	<p>▶ 2015 年 9 月 1 日(火) 13:30-17:30 / 富士通（株）本社</p>
	<p>大学のクラウド情報基盤の行方 ～6 年間の運用を経て、その成果と課題～ 長谷川 孝博（静岡大学）</p>
	<p>北海道大学アカデミッククラウドから ハイパフォーマンスインタークラウドへ 棟朝 雅晴（北海道大学）</p>
	<p>広島大学におけるパブリッククラウド活用事例 掲載 ～クラウド化がもたらす本当の効果～ 相原 玲二（広島大学）</p>
	<p>パネルディスカッション 「今後の大学等でのクラウド利用はどうあるべきか」- コーディネータ：藤村 丞（福岡大学） パネリスト：長谷川 孝博（静岡大学）、棟朝 雅晴（北海道大学） 相原 玲二（広島大学）、高倉 弘喜（国立情報学研究所）</p>

2015 年度 第 2 回会合	組織のためのサイバーセキュリティ対策 -セキュリティポリシーと CSIRT-
	<p>▶ 2016 年 1 月 18 日(月) 13:30-17:50 / 富士通（株）本社</p>
	<p>室蘭工業大学におけるセキュリティポリシー策定とその運用 刀川 眞（室蘭工業大学）</p>
	<p>高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集 （2015 年版）改訂のポイント 金谷 吉成 （東北大学、高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進部会）</p>
	<p>東工大 CERT の立ち上げと現在の取り組み 掲載 松浦 知史（東京工業大学）</p>
	<p>標的型攻撃時代に求められる組織のサイバーセキュリティ対策 奥原 雅之（富士通（株））</p>

教育環境分科会

2015 年度 第 1 回会合	学習者主体の学びとその支援 -新しい学びの環境作りと活用-	
	▶ 2015 年 8 月 25 日(火) 13:30-18:00 / 富士通(株)本社	
	金沢大学における ICT の教育への活用 森 祥寛(金沢大学)	
	ICT がつなぐ中等教育と学術研究との連続性 木村 健太(広尾学園)	掲載
	e ポートフォリオ研究 WG 成果報告 ～大学教育改革における e ポートフォリオの動向～ 小松川 浩(千歳科学技術大学)	
ワークショップ 新たな学びの空間を生み出すモノ・コトを考える		

2015 年度 第 2 回会合	学習者主体の学びとその支援 -遊びと学びの交差点-	
	▶ 2015 年 10 月 28 日(水) 13:30-20:00 / ホテルオークラ神戸	
	「経営学教育におけるゲーミングシミュレーションの新潮流」 田名部 元成(横浜国立大学)	
	「ゲーミフィケーションを活用した大学教育の可能性について」 岸本 好弘(東京工科大学)	
	「子供の創造的活動とプログラミング学習」 阿部 和広(青山学院大学)	
	教育環境分科会 トピックス報告 「大学教育におけるラーニングアナリティックスの利活用に向けて」 掲載 緒方 広明(九州大学)	
懇談会 「遊びと学びの交差点」 コーディネータ:喜多 一(京都大学) パネリスト:田名部 元成(横浜国立大学)、岸本 好弘(東京工科大学) 阿部 和広(青山学院大学)、緒方 広明(九州大学)		

科学技術計算分科会

SS 研 HPC
フォーラム
2015

フロンティア
計算科学の新潮流

▶ 2015 年 8 月 28 日(金) 10:30-17:30 / 富士通(株) 本社

AI グランド・チャレンジ「ロボットは東大には入れるか」が
投げかけるもの

掲載

穴井 宏和(国立情報学研究所/九州大学/富士通研究所)

Suiren での HPL 及びアプリ性能について(+Shoubu の話)

掲載

似鳥 啓吾(理化学研究所)

ステンシル系プログラムによる FX100 の性能評価と高速化チューニング

高木 亮治(宇宙航空研究開発機構)

富士通の HPC に向けた取り組み

新庄 直樹(富士通(株))

パネルディスカッション

拡がる HPC

コーディネータ: 小柳 義夫(神戸大学)

パネリスト: 伊藤 伸泰(東京大学/理化学研究所)

西成 活裕(東京大学)

藤原 義久(兵庫県立大学)

安福 健祐(大阪大学)

科学技術計算分科会

2015 年度 会合	エクサスケール時代のグランドデザイン
	▶ 2015 年 10 月 28 日(水) 13:30-20:00 / ホテルオークラ神戸
	「ビッグデータ同化」でゲリラ豪雨に挑む 三好 建正（理化学研究所）
	FLAGSHIP2020 プロジェクトとエクサスケールに向けた プログラミングモデルの課題 佐藤 三久（理化学研究所）
	ファイル I/O の分析と改善 ~ファイルシステム利用技術 WG 成果報告~ 藤田 直行（宇宙航空研究開発機構）
	アプリケーション性能による PRIMEHPC FX100 の評価 三吉 郁夫（富士通（株））
	タスクフォース意見交換 タスクフォース「今後の HPC 利用環境のグランドデザイン」提言に 関する意見交換 村上 和彰（九州大学）
懇談会 専用機、アクセラレータに未来はあるのか？ モデレータ：姫野 龍太郎（理化学研究所） パネリスト：黒川 原佳（理化学研究所） 下川辺 隆史（東京工業大学） 牧野 淳一郎（理化学研究所） 安島 雄一郎（富士通（株））	

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

合同分科会

2015 年度 会合	<h2>オープンデータとセキュリティ</h2>
	▶ 2015 年 10 月 29 日（木）～10 月 30 日（金） / ホテルオークラ神戸
	10 月 29 日(木) -1 日目-
	<p>特別講演 「オープンデータ」が先導する新たな社会 掲載 岩田 修一（東京大学/事業構想大学院大学）</p>
	<p>科学技術計算分科会代表報告 掲載 感染症シミュレーションから早期探知システムへ 大日 康史（国立感染症研究所）</p>
	<p>システム技術分科会代表報告 ネットワークデータの異なり数計測とその応用 吉田 健一（筑波大学大学院）</p>
	<p>教育環境分科会代表報告 情報倫理教育のこれまでと、これから 辰己 丈夫（放送大学）</p>
	<p>討論会セッション 「若手科学者の広がる未来」 コーディネータ：丸山 宏（統計数理研究所） パネリスト：榎木 英介（近畿大学）、八代 嘉美（京都大学） 横山 広美（東京大学）、高橋 啓（統計数理研究所） 河合 宗司（東北大学）、久門 耕一（富士通研究所）</p>
	10 月 30 日(金) -2 日目-
	<p>特別講演 オープンデータとセキュリティ on AWS 高岡 将（アマゾンウェブサービスジャパン（株））</p>
	<p>特別講演 State of the OpenStreet Map ～地域がつくる、オープンデータの世界地図情報～ 古橋 大地（青山学院大学）</p>
	<p>特別講演 Linked Data によるオープンデータ活用技術 湯上 伸弘（富士通研究所）</p>

WG 活動（発足時の活動方針）

深く掘り下げて検討を行う必要があるテーマについて、期間を定め、限定メンバーで研究活動を行い、成果物を会員にフィードバックする活動体

ポストペタアプリ性能 WG [2014/3-2016/2] 終了	
	<p>スーパーコンピュータ「京」や FX10 などマルチコアクラスタマシンの利用が広がりにつつある。</p> <p>FX10 の後継機(Post-FX10)では引き続きコア数の増加が予想され、これまで以上に多くのコア数(もはやメニーコアと呼べるか)を活用する技術がユーザーに求められている。</p> <p>そのため、多くのコアを持つクラスタマシンに適したプログラミング技術を広く一般ユーザーに広めることを目的に、多くの種類のアプリケーションプログラムを対象に性能評価やチューニング技術の研究を行い、ノウハウの集約と共有を行う。</p>
LA を利用した教育・学習効果の向上 WG [2016/1-2017/12]	
	<p>本 WG では、学習活動によって蓄積された多種多様なデータをもとに分析されている LA(Learning Analytics)の事例を調査し、LA の定義も含めた現状分析を実施する。</p> <p>事例調査においては、対象となるデータソースの観点、分析目的に照らしたアウトプットの観点で整理し、いかに活用が進んでいるかの実態を把握する。具体的には、LMS、e ポートフォリオなどのデータの種類や収集頻度と、ドロップアウト防止や教材の品質向上といった得たい成果との組合せで事例を整理する。</p> <p>さらに、分析結果の活用として、データを元にどのようなアクションに結び付けられ、効果が得られているかの観点で評価情報も加え、LA プラットフォームのあり方を研究する。</p> <p>教育・学習効果の向上を目的として、LA を広く一般化して活用する方策についても検証・研究を実施する。</p>

終了 WG は成果報告書が作成されています

タスクフォース活動

SS 研の今後の方向性、他組織との連携、新たな活動機能など従来の枠組みを越えたテーマについて検討し、施策・計画の策定、および必要な施策を講ずる活動体

タスクフォース「今後の HPC 利用環境のグランドデザイン」	
	終了
	<p>HPC は、科学技術の発展、我国の産業の国際競争力の強化、安心安全な社会の構築など様々な分野で、それらを実現するための中核技術の一つとして期待されている。</p> <p>近年、エンドユーザの利用環境では、クラウドやアプリケーションの利用環境など、TCO(Total Cost of Ownership)を抑えながら、短 TTS(Time To Solution)化を可能とする技術やサービスが登場している。</p> <p>現状の我国の HPC の利用環境を見たとき、当該環境はマシン開発者やプログラム開発者などのトップエンドのユーザを主な対象としており、それ以外の HPC の専門家ではないエンドユーザが活用できる有効なソリューションとして十分整備されているとは言えない状況である。HPC はエンドユーザに対しより有効なソリューションとなることが期待される。</p> <p>本タスクフォースでは、HPC がエンドユーザにとって、より有効なソリューションとなるための、あるべき姿、および、その実現の上での課題と解決策について調査を行い、提言をまとめる。その提言内容を外部に対して発信すると共に、会員に対してフィードバックする。</p>
タスクフォース「データで紡ぐオープンアカデミーのあり方」	
	<p>これからの大学には、国際的な産業競争力向上の基盤として、グローバルな舞台で積極的に挑戦し活躍できる人材の育成、先進的な研究開発による科学技術への貢献が求められている。</p> <p>また、ネットワーク環境の急速な進展により、様々な情報を結びつけることで、新たな価値やイノベーションを起こせる時代が到来した。</p> <p>このような状況の中、これからの大学は、局所的な情報利活用ではなく、全学的もしくは大学間、さらには社会との情報(データ)連携によって、新しい価値を生み出し、大学の使命を果たしていくことが、急務となっている。</p> <p>本 TF では、Open Academy(*)を念頭に、2020 年～2025 年時点の近未来に目指すべき大学のあり方やモデル(教育、研究、事務、インフラ、調達、大学経営 他を含む)を、制約なしで議論し、得られた知見を、大学の経営層への提言としてまとめることを目標とする。</p> <p>(*)Open Academy : Open Education、Open Science、Open Data を有機的に結びつけ、オープンな教育研究環境を提供する概念</p>

委員会活動

SS 研活動を支援するために必要な事項を検討する活動体

活動推進委員会	
	<p>SS 研活動のあるべき姿、期待される新しいミッションについて議論し、これからの活動の方向性を示していく。また、活動の制度設計から実際の活動企画、トライアル実施、評価までを行うことで、新しい SS 研活動をインキュベートする役割を担う。</p>



Scientific Systems

サイエンティフィック・システム研究会

ニュースレター選集 vol.16 2016年5月27日発行

発行 サイエンティフィック・システム研究会

お問合せ サイエンティフィック・システム研究会 事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2

Tel: 03-6252-2582 E-mail: office@ssken.gr.jp

Website: <http://www.ssken.gr.jp/>

Facebook: <http://www.facebook.com/ssken>

著作権は各原稿の著者または所属機関に帰属します。無断転載を禁じます。